様式３

小１０　開進第一小学校

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教 科 名	図　工

	指導方法の課題分析 （学習における児童の実態等）	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第１学年	・いろいろな材料を使って表現することに喜んで取り組んでいる。 ・はさみやのりなどの用具をうまく操作できない児童もいる。また、立体作品を平面的に表現する児童もいる。	・場と時間を保証し、様々な材料に触れる経験を積ませ、用具の使い方を身に付けさせる。素材をさわる、握る等の直接体験を多くさせるとともに、粘土や工作などで三次元の感覚をつかむ経験を多く取り入れる。	・学校行事や学級活動などに絵画などをできるだけ取り入れ、創作する楽しさを味わわせる。 ・友達と互いの作品を見合うことにより、様々な発想の在り方や表現の方法を学ぶ機会を持たせる。
第２学年	・絵や工作など表現することが好きな児童が大部分で、意欲的に取り組んでいる。アイデアを表現するために素材を上手に利用する方法を体験したり、はさみやのりなどの使い方を身に付けたりすることが必要である。	・材料を並べたり、つないだりして、手や体など全体を働かせ、体全体の感覚で感じる造形活動を取り入れる。基本的な用具の使い方に慣れさせるような場を授業の中で取り入れる。	・図工の授業時間に限らず、日常生活の中ではさみやのりなどを使う場面を増やし使い方に慣れさせる。 ・描いたり作ったりした造形的なおもしろさなどを友達の作品に触れる中で気付かせて、楽しく見る場面を作る。
第３学年	・友だちの作品の「工夫のよさ」に気づくような場面を多く設定していくことが課題である。	・鑑賞の時間を設け、気づいたことの交流を行う。 ・技能面で、基本的な用具の取り扱いに十分に慣れさせ、さらに発展的に取り扱うことができるように指導する。	・素材との出会い方の工夫と多様な表現方法のあり方を示す。 ・多くの表現方法にふれさせる。
第４学年	・発想が広がりすぎてアイデアがまとまらなかったり、時間内に完成できなかったりする様子が見られる。	・思い付いたことを聞きながらアイデアをまとめる支援を行い、製作時間や進度を話してできる範囲を想像できるようにする。	・制作過程の提示、実物資料や掲示資料の充実など具体的な手がかりを示す。
第５学年	・発想の広がりや表現の工夫、自分なりのこだわりに個人差が見られる。 ・表現したいことに合わせて用具や方法を効果的に使えない様子が見られる。 ・時間内に完成させるという意識が薄い児童が 10％程度いる。	・互いに作品を鑑賞し合い、表現について話したり、書いたりする機会を設定し、表現の多様性への関心を高める。 ・友達の表現や作品の画像を大型テレビに映し、具体的に工夫するとよいポイントを示し、工夫を促す。 ・児童の思いを聞く時間を増やし、表現したいことについて話し合ったり効果的に表現できたことについて紹介したりする。	・友達や身近な美術作品など多様な表現方法に触れさせ、自分の好きな表現に気づかせる。 ・制作過程の提示、実物資料や掲示資料の充実など具体的な手がかりを示す。 ・１学期前半の授業の振り返りをもとに自分なりの目当てをもたせる。

		活動の見通しをもたせ、毎時間、進度の確認を行う。	
第６学年	・発想の広がりや表現の工夫、自分なりのこだわりに個人差が見られる。 ・時間内に完成させるという意識が薄い児童がいる。 ・表現したいことに合わせて用具や方法を効果的に使えない様子が見られる。	・互いに作品を鑑賞し合い、表現について話したり、書いたりする機会を設定し、表現の多様性への関心を高める。 ・友達の表現や作品の画像を大型テレビに映して具体的に工夫するとよいポイントを示し、工夫を促す。 ・児童の思いを聞く時間を増やし、表現したいことについて話し合ったり効果的に表現できたことについて紹介したりする。 活動の見通しをもたせ、毎時間、進度の確認を行う。	・友達や身近な美術作品など多様な表現方法に触れさせ、自分の好きな表現に気づかせるとともに多様な価値観があることに気付かせる。 ・制作過程の提示、実物資料や掲示資料の充実など具体的な手がかりを示す。 ・１学期前半の授業の振り返りをもとに自分なりのめあてをもたせる。